

「御国が来ますように」 神の計画～あなたの名前Ⅱ～

マルコ 3:13～19

■ 本当の心ではない心

バンクオフアメリカ、駐車場の乱用で有料にした。
ある老人はそのことを知らず現金をもたず銀行に来たものだから今回だけ免除してくれないかと相談。しかし対応した銀行員は、ルールはルールとお金を支払えというばかり。この対応によって老人は6億円のお金を全部おろして、隣の銀行に預けることにしてしまいました。実はこの老人は、その銀行での高額預金者だったのです…。その銀行員の嫌な態度、本当にそうしなかったのでしょうか？もちろん、嫌な態度を進んでしたい人はいないはず。しかし、その銀行員は、この対応によって多くの損害を出してしまいました。
わざわざ嫌なことを私たちは言いたくないはず。しかし、人に良くしてあげたい心を失い、本当にしたいのではなく、したくないことをついついやってしまいます。
だから、愛とはその人の計画が本当に成せるようにお手伝いをする。本当の心が成せるように寄り添う事です。神様は私達を本当の姿に戻したいのです。

■ シモン・ペテロの名 (マルコ 3:13-17)

シモン、彼の名は「聞く」。創世記 3:8 の御言葉と同じ原語が使われています。神の御言葉をシャー。派生シャーマ「聞」。創世記の時代、アダムとイヴは、蛇にそそのかされて食べてはならないと言われていた木の実を食べてしまいました。それによって、本来は神に聞く者だったにもかかわらず、自分で判断するようになりました。神から御顔を背けたのでした。それが私達の中にある原罪です。原罪は的を外すこと。私達はすぐに的を外してしまう存在なのです。だから私達が判断するとき何を基準に判断するかが大事です。善悪を知る罪は自分で善悪を判断をしてしまうこと＝自分を神にしてしまうことです。神様に聞いて判断することで自分と神様の考え方のギャップを感じることが必要です。

イエス様は、十字架に向かわれる前に「この杯をとってください」と祈ったけれども、「この心が神の御心でなければ変えてください」と祈りました。私達も神様の御言葉を選ぶのか、選ばないのか、選べば祝福されるし、選ばなければ腐っていきます。しかし、神様の声を聞けないときもあります。だから教会の家族がいます。聞けよと愛を持って伝えてくれる家族がいます。

■ ペテロ (岩) の名

ヘブル語でケーフ＝荒地という意味です。価値のないものとして投げ捨てられたものです。しかし、この岩の上に教会を建てるとイエス様は言われました。私たちがどう選ぶかで価値なきものが教会として生まれ変わるのです。

■ ゼベダイの子ヤコブとヨハネの名

ヤコブ (かかと＝奪い取る) とエサウ、創世記に出てきたヤコブは長子の権利を奪い取った後お兄さんがいるところに戻るとき、ヤコブの心配とは違ってエサウは遠くから走ってきて迎えてくれました。その時の和解を象徴する恵みがヨハネの名前です。ヘブル語でハーナ 創世記 33:5 「神があなた様の僕に恵んでくださったこどもたちです」の恵んでくださったのところです。

ゼベダイは授ける、ボアネルケは雷の子という意味です。この雷の子の由来は旧約時代のペニンナとハンナの話からでした。ペニンナと違って子どもができなかったハンナが覚えた憤りの感情がそれでした。その多くの憤りで慌てふためく、なんでこんな目に遭うんだと思うような状況に置かれたハンナに神様は

最終的にはレヴィ族とユダ部族の母として恵んでくださいました。

クリスチャンもこのように心が慌てふためく時を通るなど迫害に合うかもしれません。しかし、必ず恵んでくださる神様がいらっしゃるということを名を呼ぶシーンで私たちに語られています。

神様は私たちに意味を持っています。そして、その意味のゆえに苦しみと葛藤にいるかもしれません。そんなとき、神の声を聞くのか、それとも人に聞くのか。神から恵みを受けるまで貫くことができるのかそれとも諦めるのか。なのです。

神様が私達の病を願っている方ではありません。私達が自分の名の本当の意味からずれてしまうと病が起こります。しかし、神様はそれを使ってでも私達を神様に戻したいのです。

神様は雷の子、ヤコブとヨハネの感情的なところを用いて、迫害下に置かれた教会を助ける人として使われました。

最後に

ヘンリーナウエンという方は「私を傷つける人を不道徳な人として見るのではなく、乾いている人として見るができるようにしてください。水を差し出す勇気をください。どうやって飲んでもらえるのかを教えてください。」と言いました。そして、尾山令仁先生の映像で紹介された親子の詩のやりとり。15歳で障害を持った息子が愛をお母さんに伝える姿とそれに愛のこもった返事の言葉を送るお母さんの姿、私たちの本当の心からずれてしまった今の私たちに本当は人のために良い言葉をかけてあげたい心があるということ思い出せてくれました。
『人からしてもらいたいと望むとおり、人にしなさい。』ルカによる福音書 6:31

それは私たちの中にある枯渇した愛ではなく、神様から受け取った愛を流すことができます。聖書は小さなからし種のように信仰でいい、それが多くの恵みに変わると教えています。どんな失敗者でもいい、やり直す事ができると言っています。

自分の力ではどうすることもできない私達はともにその罪をおろすために十字架に向かってくださったイエス様に祈ることができます。「主よ。赦してください。私の罪を赦してください。」見る目が変わらされて人生が変わる奇跡が持たされますように。

(要約者:岡本 英樹)

(2022年 10月2日)